

(5) 20年度の取組

研究テーマ

「個に応じた自立活動 ～付けたい力を引き出す教材・教具の工夫～」

昨年度は、自立活動として位置付けている個別の活動を丁寧に見直し、一覧表にまとめて互いに交流したり、区分についての分析を行ったりした。実態の違いにより、取組内容の中心的なねらい(区分)も一様ではなく、また、一つのねらいにせまる取組も多様であった。

今年度は、その自立活動を中心とした取組の中で使用する教材・教具について注目した。超重症児にあたる児童生徒の割合が増える中で、付けたい力を引き出すには姿勢保持をはじめとする様々な取組において個に応じた「使いやすい」教材・教具の準備が必要である。現在の実態から改めてその考え方を全体で整理し、視点や留意点を踏まえて作成し、交流した。作成過程で豊富な参考資料に触れるため、参考になるホームページを互いに紹介し合えるホームページリンク集を作り、情報交換した。部内研修においてもそこで出会った資料を大いに参考にさせてもらっている。

重心教育における教材・教具のあり方とは？(作成、工夫についての研修で整理したこと)

* 「特別支援教育のおもちゃ箱」(北海道のHPより)参考

教材・教具の定義

教材： 教育目標と子どもの発達の現状とを直結するために、教師が意図的にもたらすところの媒体ともいべき教育学上の素材。

子どもを主体とした場合の、その客体となるすべての文化財としての抽象的内容。

教具： 教育の方法または手段として使われる具体的な道具

* 「障害をもつ子どもの教材・教具」久里浜の教育同人会編

重心教育における教材・教具の機能

1. 興味、関心を引き出し、自発的な行動を促す。
2. 授業に向かう動機付け(気付き)になる。
3. 学習を障害や発達に応じて系統的、構造的に展開させる。
4. 実態に合わせていることで、学習を深め、効率を上げる。



重心教育における教材教具の工夫、開発

開発の観点 ・ 注意を引きつけ(興味や得意な活動に沿ったもので)、手指を動かす等の活動や気付きを引き出すもの。

- ・ 感覚、運動機能の発達を促すこと。またその手助け(課題解決)となるもの。
- ・ 正しい反応を強化できるものであること。
- ・ 健康の増進を図ること。
- ・ 生活経験の幅を広げるものであること。
- ・ 使用する児童、生徒の障害の実態に合ったもの。

留意点

- ・ 安全面に十分注意する。(特に、本人が直接使用する場合、破損しにくく、傷つきやすい形状でないもの。)
- ・ 衛生的に保存し、手入れしやすいもの。(衛生面での配慮)
- ・ 持ち運びが容易、丈夫である。

<障害の特性に合った配慮点>

視覚障害

- ・ 両手の中で扱えるまたは触りやすい適切な大きさにする。
- ・ 色や素材の違いを明確にする。
- ・ 保有する感覚を活用できるようにする。
- ・ 単純化する。

重度の知的障害

- ・ 特に、子どもの興味関心に結びつくものであること
- ・ 操作による反応が短時間に表れる。(繰り返しが可能)
- ・ 子どもの課題解決につながるもの。
- ・ 達成感につながるもの。
- ・ 子どもと教師が時間を共有できるものであること。

肢体障害

- ・ 持っている運動機能の実態に即したものである。
- ・ 視知覚の状態に配慮する。
- ・ 操作が容易である。
- ・ 本人の興味関心を考慮する。
- ・ 緊張が入りにくくリラックスできるもの。(筋緊張を誘発しにくいもの)



以上のような研修をもとに、それぞれ情報交換しながら教材作りを始め、実際に使う中で改善しながら児童生徒ごとに教材カードを作成した。記入する内容は、写真、使い方、材料、対象児童生徒について、ねらい、成果と課題である。次に3名について実際のカードを掲載している。

教材・教具名 光のページェント



対象児童生徒について

- ・ 身体への刺激を受けることや痰が溜まって呼吸が浅くなることで緊張が高まり、身体を硬くして顔も右を向いてしまう。
- ・ 光刺激に弱く、明るい場所では目を開けることができない。
- ・ 眼球に不随意運動があり、じっと見続けることが難しい。

使い方

- ・ 外部と仕切った空間の中で、ブラックライトの光を当てながら、蛍光色の教具をゆっくりと提示する。

材料

- ・ ペットボトル、蛍光絵の具、画用紙など



ねらい

- ・ 蛍光に光る風車や布、ペープサート等に興味を示し、視線を向けることができる。

工夫した点

- ① リラックスできる環境を整える。
 - ・ 部屋の明るさを落とす。
 - ・ 静かなBGMを流す。
 - ・ 事前に身体に十分に触れることで、安心感を与えると共に、呼吸を整え心身をゆったりとさせる。(車椅子のリクライニングを倒して行う)
- ② 目を開けてきたら、リクライニングを起こし、見せたい物に注目できるようにゆっくりと提示する。
- ③ 本児が目で捉えたことを確認しながら、教具を少しずつ左方向へ移動させていく。
- ④ ブラックライトの光の中でしっかりと目に止まる蛍光色の教具を工夫する。
- ⑤ 視覚的な刺激を精選する。

成果、今後に向けて

- ・ 本児の見やすい明るさの中でじっくりと取り組んだことで、身体をゆったりとリラックスさせ、目もよく開けることができた。
- ・ 授業の終わる頃には、口元が緩んで軽く開き、穏やかに笑っているような表情が見られるようになってきている。
- ・ 提示した教具をどの程度とらえているかは定かではないが、提示物を追うように少しずつ顔や視線を左方向へ向けていく様子が継続して見られた。
- ・ 日常の関わりの中で、身近な人の言葉かけを聞いて目を開け、その声のする方へ視線を向けて存在を確かめるような様子が見られるようになった。
- ・ 本児が心地よいと感じる関わりを繰り返すことで、「人」に対する安心感を高め、そのことを通して外界への関心につなげていくことが今後も大切である。

教材・教具名 お絵かきボード



対象児童生徒について

近くはよく見える。紐などを片手でよく引っ張るが両手を出すことも増えてきた。また、画面に色が付くことが分かり、手を支えると描こうとする。低緊張で座位は難しいが、寝た姿勢だと手足がよく動く。

使い方

- ・ 絵を描く時に、生徒の見えやすい目の前にボードがくるように、指導者の首紐と腰紐で調整する。
- ・ ペンとチューブを両手で握らせて、腕の動きを調整しながら描けるようにする。

材料

- ・ 塩ビ透明のボード（厚さ1mm）
- ・ ホワイトボード用マーカーペン
- ・ 電気コードを覆う蛇腹チューブ
- ・ 紐

ねらい

- ・ 色が付くことに気づき、一人で自由に描く。

工夫した点

- ・ 透明板にした。
反対側から指導者が描いて見せることで、画面を注目し、何をしたら良いかを見えるようにした。
- ・ ペンに蛇腹のチューブをつけた。
両手で持てる。両腕の動きが同じように動かさなくても、曲がるので調整しやすい。
- ・ 上を向いて描くときの危険が回避しやすい。
透明板なので生徒の表情や動きを見て、すぐに対応できる。両手で持つので、片手が離れても落ちて顔に当たりにくい。



[→動画へ](#)



成果や今後に向けて

今まで筆を持たせると、振り回したり落としたりするため、上向き姿勢では危険があった。なるべく指導者が止めずに、ペンを持たせてみたいという願いからこの教材をつくった。今回、自分で描ける環境を設定できた時に、画面に集中してペン先を向け、色が付くことに気づくと、振り回すことが減り、繰り返し線を描いた。また、片手が離れた時にも、両手で持ち直しペン先を画面に向けていった。教材を通して、子どもの秘めた力に私自身が気づくことができたといえる。見つけられた好きな活動を基に、今後は側臥や座位の姿勢づくりにこの取り組みを生かしていきたい。

教材・教具名 「あれれ？ みいつけた」の絵本（さわる絵本）



対象児童生徒について

聴覚優位で、視覚的には明暗についてもその認知は確認しにくい。

左腕が優位で、自分の意思で腕を高く上げたり上下できる。不随的な動きも多く、じっくりさわったり、握り続けたりは困難だが、感触への気付きはあり、表情にも表れることが多い。右は自発的に動かすにくい。ゆっくりと握ったり、左に合わせて反射的に動くこともある。

使い方

場面（ページ）に合わせた語りかけを受けて、自分で腕を動かし、いつもと違う感触に気付いて再び探ったりして楽しむ。

主に、側臥で触りやすいような形状にしている。（本人に近づけやすいため）

材料

ボール紙、感触のおもしろいもの色々（100均で探してきました。）

ねらい

- ・ 手指の感覚と、自分で指を動かす力を生かし、感触の違いを感じながら色々なものへの関心を広げていく。
- ・ 手に刺激を与えることにより、色々なことを感じる感性を豊かにする。

工夫した点

- ・ 側臥で手が移動できる範囲を考えて、本の形や素材を張り付ける位置を考えた。つるつるやがたがたなど違いがはっきりしたものを選んでいる。



[→動画へ](#)

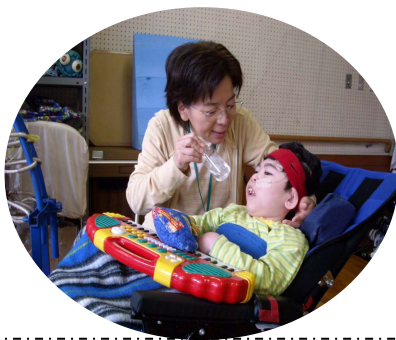


成果、今後に向けて

1学期から絵本に使ったような素材で感触遊びを行っていたが、今回一つひとつに意味を持たせ絵本にまとめた、場面をイメージしながら楽しく声掛けができるよう文字も加えることにより、同じ設定で言葉かけしながら繰り返し使えるようになった。

本児の気付きもしっかりあり、触れた後にまた手が戻ってくるが増えている。また手を止めて指だけを動かし確かめるような動きもできてきた。声以外の音刺激にも工夫を加えるなど、気持ちがさらに集中しやすいものにしていきたい。

教材・教具の紹介



音楽つき絵本

場面に合わせていろんな音が…
臨場感のある演出に。



光る紙芝居

ベッドにブラックライトで光る舞台ができました。



キーボードで弾こう!

④ゲージョン機能を使って

光る鍵盤が見えるような姿勢づくりと指が滑らないように鍵盤にテーピングしたことがポイント。



カスタネット名人

指通し部分を改良して手とカスタネットがぴったりフィット。



打ち出の小槌

振ると音が出る仕組み。中に入れるものを換えて楽しめます。



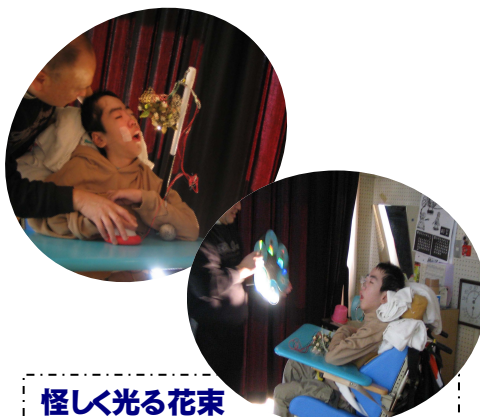
チェアベルトと椅子クッション→動画へ

伸縮性があり軽い水着の素材を再利用。簡単に取り付けできて、座位も安定。



棒スイッチ「タッチミー」

どの方向に傾けてもスイッチが入る仕組み。犬がワンワン鳴きながら動いて楽しいな。



怪しく光る花束

スイッチ操作で花が光る!

虹色に輝く円盤

CDを貼り付けた回転テーブルにスポットライトを当てると、七色の光が…



マジックスティック

マレットの部分は着脱できるから、筆などにも交換可能。